

第78期第2四半期 (自 平成26年7月1日)  
(至 平成26年9月30日)

# 四 半 期 報 告 書

株式会社 奥 村 組

第78期第2四半期（自平成26年7月1日 至平成26年9月30日）

# 四 半 期 報 告 書

- 本書は四半期報告書を金融商品取引法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した四半期報告書に添付された四半期レビュー報告書及び上記の四半期報告書と同時に提出した確認書を末尾に綴じ込んでおります。

株式会社 奥 村 組

# 目 次

	頁
第78期第2四半期 四半期報告書	
【表紙】 .....	1
第一部 【企業情報】 .....	2
第1 【企業の概況】 .....	2
1 【主要な経営指標等の推移】 .....	2
2 【事業の内容】 .....	2
第2 【事業の状況】 .....	3
1 【事業等のリスク】 .....	3
2 【経営上の重要な契約等】 .....	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 .....	3
第3 【提出会社の状況】 .....	5
1 【株式等の状況】 .....	5
2 【役員の状況】 .....	7
第4 【経理の状況】 .....	8
1 【四半期連結財務諸表】 .....	9
2 【その他】 .....	18
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】 .....	19
四半期レビュー報告書	
確認書	

## 【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年11月12日

【四半期会計期間】 第78期第2四半期  
(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)

【会社名】 株式会社奥村組

【英訳名】 OKUMURA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 奥村 太加典

【本店の所在の場所】 大阪市阿倍野区松崎町二丁目2番2号

【電話番号】 06-6621-1101

【事務連絡者氏名】 取締役執行役員 管理本部副本部長兼経理部長 田中 敦史

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝五丁目6番1号

【電話番号】 03-3454-8111

【事務連絡者氏名】 東日本支社経理部長 松島 弘幸

【縦覧に供する場所】 株式会社奥村組東日本支社  
(東京都港区芝五丁目6番1号)  
株式会社奥村組名古屋支店  
(名古屋市中村区竹橋町29番8号)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第 1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第77期 第2四半期 連結累計期間	第78期 第2四半期 連結累計期間	第77期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (百万円)	79,055	91,272	193,024
経常利益 (百万円)	178	2,590	3,789
四半期(当期)純利益 (百万円)	120	2,399	3,755
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	5,708	4,553	7,521
純資産額 (百万円)	125,821	130,323	128,792
総資産額 (百万円)	232,606	236,640	239,663
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	0.60	12.01	18.80
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	54.1	55.1	53.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	24,210	12,899	10,195
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△10,500	△790	△2,671
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△9,163	△499	△9,666
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	32,924	37,865	26,245

回次	第77期 第2四半期 連結会計期間	第78期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日	自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	0.59	5.21

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれていません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式がないため記載していません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社に異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

「第2 事業の状況」における各事項の記載については、消費税等抜きの金額で表示しています。

### 1 【事業等のリスク】

当第2 四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項は発生していません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2 四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものです。

#### (1) 業績の状況

##### ①経営成績

当第2 四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動などにより下押しされたものの、緩やかに持ち直し始めました。建設業界においては、公共、民間投資ともに堅調に推移した一方で、技能労働者の需給逼迫や資材価格の上昇などもあり、楽観を許さない経営環境が続きました。

当第2 四半期連結累計期間の売上高は前年同期間に比べ15.5%増加した91,272百万円となりました。損益面では、売上総利益が売上総利益率の改善も加え同36.9%増加した7,776百万円となり、営業利益は1,336百万円(前年同期間は911百万円の営業損失)となりました。経常利益は貸倒引当金戻入額が増加したこと等により2,590百万円(前年同期間は178百万円の経常利益)、四半期純利益は2,399百万円(前年同期間は120百万円の四半期純利益)となり、前年同期間に比べ大幅に増加しました。

セグメントの業績は次のとおりです。

##### (土木事業)

受注高は前年同期間に比べ27.0%減少した26,567百万円、売上高は同25.4%増加した38,413百万円となり、営業利益は1,357百万円(前年同期間は281百万円の営業損失)となりました。

##### (建築事業)

受注高は前年同期間に比べ48.1%減少した39,748百万円、売上高は同9.0%増加した48,866百万円となり、営業損失は1,468百万円(前年同期間は1,681百万円の営業損失)となりました。

##### (不動産事業)

不動産事業は不動産の販売及び賃貸に関する事業で、売上高は前年同期間に比べ22.8%増加した2,454百万円となり、営業利益は同21.3%増加した1,431百万円となりました。

##### (その他)

その他は建設資機材等の製造及び販売に関する事業等で、売上高は前年同期間に比べ3.8%減少した1,538百万円となり、営業利益は1百万円(前年同期間は134百万円の営業損失)となりました。

## ②資産、負債及び純資産の状況

### (資産)

現金預金が増加しましたが、受取手形・完成工事未収入金等が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ3,022百万円減少した236,640百万円となりました。

### (負債)

短期借入金が増加しましたが、支払手形・工事未払金等が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ4,553百万円減少した106,317百万円となりました。

### (純資産)

配当金の支払い等により利益剰余金が減少しましたが、その他有価証券評価差額金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ1,531百万円増加した130,323百万円となりました。

## (2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローについては、投資活動により790百万円、財務活動により499百万円それぞれ減少しましたが、営業活動により12,899百万円増加したため、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ11,620百万円増加し37,865百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間中の各キャッシュ・フローは次のとおりです。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

仕入債務の減少等により資金が減少しましたが、売上債権の減少等により、12,899百万円の資金増加となりました。(前第2四半期連結累計期間は24,210百万円の資金増加)

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

貸付金の増加や有価証券及び投資有価証券の取得等により、790百万円の資金減少となりました。(前第2四半期連結累計期間は10,500百万円の資金減少)

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入金の増加等により資金が増加しましたが、配当金の支払い等により、499百万円の資金減少となりました。(前第2四半期連結累計期間は9,163百万円の資金減少)

## (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

## (4) 研究開発活動

当社グループの当第2四半期連結累計期間における研究開発に要した費用の総額は289百万円となりました。

なお、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

##### ① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	480,376,000
計	480,376,000

##### ② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年11月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	228,326,133	228,326,133	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株です。
計	228,326,133	228,326,133	—	—

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年7月1日 ～ 平成26年9月30日	—	228,326,133	—	19,838,913	—	25,322,139



## (6) 【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	12,854	5.63
奥村組従業員持株会	大阪市阿倍野区松崎町二丁目2番2号	7,492	3.28
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	7,451	3.26
BBH BOSTON CUSTODIAN FOR BLACKROCK GLOBAL ALLOCATION FUND, INC. 620313 (常任代理人 株式会社みずほ銀行)	100 BELLEVUE PARKWAY WILMINGTON, DELAWARE 19809370000, USA (東京都中央区月島四丁目16番13号)	6,515	2.85
株式会社りそな銀行	大阪府中央区備後町二丁目2番1号	6,074	2.66
住友不動産株式会社	東京都新宿区西新宿二丁目4番1号	6,050	2.65
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1番2号	5,568	2.44
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海一丁目8番11号	5,062	2.22
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	東京都港区浜松町二丁目11番3号	4,815	2.11
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C NON TREATY (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋三丁目11番1号)	4,303	1.88
計	—	66,185	28.99

(注) 1 上記のほか、当社所有の自己株式28,701千株(12.57%)があります。

2 ブラックロック・ジャパン(株)から平成22年6月7日付の大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付があり、平成22年5月31日現在で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けていますが、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めていません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
ブラックロック・ジャパン 株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目8番3号	1,621,000	0.71
ブラックロック・アドバイザーズ・エルエルシー	米国 デラウェア州 ウィルミントン ベルビュー パークウェイ 100	7,640,500	3.35
ブラックロック(ルクセンブルグ)エス・エー	ルクセンブルク大公国 セニンガーパーク L-2633 ルート・ドゥ・トレベ6D	2,553,100	1.12
ブラックロック・インスティテューショナル・トラスト・カンパニー、エヌ、エイ	米国 カリフォルニア州 サンフランシスコ市 ハワード・ストリート 400	474,200	0.21
ブラックロック・インベストメント・マネジメント(ユークー)リミテッド	EC4R 9AS 英国 ロンドン市 キングウィリアム・ストリート 33	—	—

3 シルチェスター・インターナショナル・インベスターズ・エルエルピーから平成23年11月18日付の大量保有報告書(変更報告書)の写しの送付があり、平成23年11月14日現在で以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けていますが、当社として当第2四半期会計期間末における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めていません。

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
シルチェスター・インターナショナル・インベスターズ・エルエルピー	英国 ロンドン ダブリュー1ジェイ 6ティーエル、ブルトン ストリート1、 タイム アンド ライフ ビル5階	27,287,000	11.95

## (7) 【議決権の状況】

## ① 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 28,701,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 197,455,000	197,455	—
単元未満株式	普通株式 2,170,133	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	228,326,133	—	—
総株主の議決権	—	197,455	—

## ② 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社奥村組	大阪市阿倍野区松崎町 二丁目2番2号	28,701,000	—	28,701,000	12.57
計	—	28,701,000	—	28,701,000	12.57

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しています。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けています。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	19,292	33,065
受取手形・完成工事未収入金等	97,253	69,992
有価証券	7,000	5,000
販売用不動産	1,034	686
未成工事支出金	7,718	9,695
不動産事業支出金	2,340	2,628
仕掛品	630	1,202
材料貯蔵品	131	131
その他	8,723	12,721
貸倒引当金	△4,261	△1,158
流動資産合計	139,864	133,966
固定資産		
有形固定資産		
土地	27,669	27,669
その他(純額)	9,804	10,119
有形固定資産合計	37,473	37,789
無形固定資産		
	237	283
投資その他の資産		
投資有価証券	60,972	63,977
退職給付に係る資産	435	-
その他	3,447	6,039
貸倒引当金	△2,768	△5,415
投資その他の資産合計	62,087	64,601
固定資産合計	99,799	102,673
資産合計	239,663	236,640

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年 3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年 9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	55,548	48,464
短期借入金	7,524	8,878
未払法人税等	291	242
未成工事受入金	10,610	10,569
引当金	2,927	1,839
工事損失引当金	1,876	2,600
資産除去債務	73	77
その他	14,393	14,974
流動負債合計	93,244	87,648
固定負債		
長期借入金	5,208	5,188
退職給付に係る負債	-	302
資産除去債務	51	74
その他	12,365	13,102
固定負債合計	17,626	18,668
負債合計	110,871	106,317
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	19,838	19,838
資本剰余金	25,326	25,326
利益剰余金	72,094	71,489
自己株式	△12,390	△12,408
株主資本合計	104,869	104,246
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,753	24,847
退職給付に係る調整累計額	1,169	1,229
その他の包括利益累計額合計	23,923	26,076
純資産合計	128,792	130,323
負債純資産合計	239,663	236,640

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	79,055	91,272
売上原価	73,376	83,496
売上総利益	5,679	7,776
販売費及び一般管理費	※1 6,590	※1 6,439
営業利益又は営業損失(△)	△911	1,336
営業外収益		
受取利息	51	52
受取配当金	516	558
貸倒引当金戻入額	344	456
その他	272	296
営業外収益合計	1,184	1,363
営業外費用		
支払利息	87	77
その他	6	31
営業外費用合計	94	109
経常利益	178	2,590
特別利益		
固定資産売却益	0	0
その他	-	0
特別利益合計	0	0
特別損失		
固定資産除却損	0	17
投資有価証券評価損	-	22
その他	-	0
特別損失合計	0	39
税金等調整前四半期純利益	177	2,551
法人税、住民税及び事業税	68	155
法人税等調整額	△11	△3
法人税等合計	57	151
少数株主損益調整前四半期純利益	120	2,399
四半期純利益	120	2,399

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	120	2,399
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,587	2,093
退職給付に係る調整額	-	60
その他の包括利益合計	5,587	2,153
四半期包括利益	5,708	4,553
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	5,708	4,553
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	177	2,551
減価償却費	390	412
固定資産除却損	0	17
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△344	△456
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	△569	-
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	-	△563
工事損失引当金の増減額 (△は減少)	△381	723
受取利息及び受取配当金	△567	△611
支払利息	87	77
固定資産売却損益 (△は益)	△0	△0
有価証券及び投資有価証券評価損益 (△は益)	-	22
売上債権の増減額 (△は増加)	29,477	24,613
未成工事支出金の増減額 (△は増加)	△1,575	△1,977
その他のたな卸資産の増減額 (△は増加)	△596	△511
仕入債務の増減額 (△は減少)	△7,412	△8,597
未成工事受入金の増減額 (△は減少)	7,330	△40
その他	△2,197	△2,979
小計	23,819	12,682
利息及び配当金の受取額	566	610
利息の支払額	△87	△77
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△87	△315
営業活動によるキャッシュ・フロー	24,210	12,899
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△4,046	△150
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	△4,017	△1,022
有価証券及び投資有価証券の売却及び償還による収入	3	1,422
有形及び無形固定資産の取得による支出	△2,387	△450
有形及び無形固定資産の売却による収入	0	0
貸付けによる支出	△101	△1,099
貸付金の回収による収入	50	423
その他	△3	84
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,500	△790



(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△8,430	1,338
長期借入れによる収入	1,100	-
長期借入金の返済による支出	△14	△21
自己株式の取得による支出	△12	△18
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△1,787	△1,778
その他	△17	△19
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,163	△499
現金及び現金同等物に係る換算差額	34	10
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,581	11,620
現金及び現金同等物の期首残高	28,343	26,245
現金及び現金同等物の四半期末残高	32,924	37,865

【注記事項】

(会計方針の変更)

「退職給付に関する会計基準」等の適用

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間から適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更するとともに、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しています。

これにより、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る資産が435百万円減少し、退職給付に係る負債が771百万円増加し、利益剰余金が1,206百万円減少しています。

なお、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微です。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目及び金額は次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
従業員給料手当	3,035百万円	2,955百万円
賞与引当金繰入額	483	496
退職給付費用	177	169

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりです。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金預金勘定	32,576百万円	33,065百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	△4,151	△200
取得日から3ヶ月以内に償還期限 の到来する短期投資(有価証券)	4,500	5,000
現金及び現金同等物	32,924	37,865

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,797	9	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月27日 定時株主総会	普通株式	1,796	9	平成26年3月31日	平成26年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	土木事業	建築事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	30,624	44,833	1,998	77,456	1,599	79,055	—	79,055
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	490	9	499	80	580	△580	—
計	30,624	45,324	2,007	77,956	1,679	79,635	△580	79,055
セグメント利益 又は損失(△)	△281	△1,681	1,180	△782	△134	△917	5	△911

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設資機材等の製造及び販売に関する事業を含んでいます。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額5百万円はセグメント間取引消去等です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

当第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	土木事業	建築事業	不動産事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	38,413	48,866	2,454	89,734	1,538	91,272	—	91,272
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	10	10	15	25	△25	—
計	38,413	48,866	2,464	89,744	1,553	91,298	△25	91,272
セグメント利益 又は損失(△)	1,357	△1,468	1,431	1,321	1	1,322	14	1,336

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、建設資機材等の製造及び販売に関する事業を含んでいます。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額14百万円はセグメント間取引消去等です。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っています。

(金融商品関係)

現金預金が事業の運営において重要なものとなっており、かつ前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められますが、当第2四半期連結貸借対照表計上額と時価との差額及び前連結会計年度に係る連結貸借対照表計上額と時価との差額に重要性が乏しいため、注記を省略しています。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益(円)	0.60	12.01
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	120	2,399
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	120	2,399
普通株式の期中平均株式数(株)	199,703,839	199,644,626

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月7日

株式会社 奥村組  
取締役会 御中

## 有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 後藤 紳太郎 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 奥村 孝司 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社奥村組の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社奥村組及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。

**【表紙】**

**【提出書類】** 確認書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の8第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年11月12日

**【会社名】** 株式会社奥村組

**【英訳名】** OKUMURA CORPORATION

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 奥村 太加典

**【最高財務責任者の役職氏名】** ー

**【本店の所在の場所】** 大阪市阿倍野区松崎町二丁目2番2号

**【縦覧に供する場所】** 株式会社奥村組東日本支社  
(東京都港区芝五丁目6番1号)

株式会社奥村組名古屋支店  
(名古屋市中村区竹橋町29番8号)

株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)



1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長奥村太加典は、当社の第78期第2四半期(自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日)の四半期報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。